

# 平成29年度障害者支援施設けやきの村事業報告書

障害者支援施設として快適な環境のもとで、個人の尊厳が最大限に尊重され、自己決定に基づくその人らしい生活の実現をめざすとともに、地域生活を支える多様な事業の展開と就労に関する支援を充実させ一般企業への就労を含めた社会経済活動への参加を促進するなど、利用者の自己実現をめざした支援を行うため、「平成29年度社会福祉法人けやきの村事業計画」に基づき、それぞれの分野において関係法令に則った適正なサービスの提供と質の向上に努め、次の各項目にそって事業を行った。

## 1. 実施した障害福祉サービス事業

### (1) 生活介護事業

利用者が自己決定に基づいたその人らしい生活を営むことができるよう、入浴・排泄及び食事の介護、機能維持のためのリハビリ訓練、生活の質を高めるための集団レクリエーション活動、創作的活動または生産活動の機会の提供、その他の便宜を適切かつ効果的に行った。

### (2) 就労移行支援事業

利用者の就労に対する意欲を十分に尊重し、生産活動その他の活動を通して、就労に必要な知識および技能の習得及び地域生活に必要な能力を身に付けるため、必要な訓練・実習その他の便宜を適切かつ効果的に行った。

### (3) 就労継続B型事業

利用者の働きたいという意欲を十分に尊重し、その人に合った生産活動の場を提供するとともに社会生活における習慣の体得と技能の習得ができるよう、必要な訓練およびその他の便宜を適切かつ効果的に行った。

### (4) 施設入所支援事業

利用者が日中活動と併せて夜間においてその人らしい生活を営むことができるよう、入浴・排泄及び食事の介護等の便宜を適切かつ効果的に行った。

### (5) 短期入所事業

居宅においてその介護を行う方の疾病その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者に対し、短期間の入所をさせ入浴・排泄および食事の介護等の便宜を適切かつ効果的に行った。

## 2. 運営管理及び諸会議等

(1) 施設は、契約に基づいた利用者本位の支援の提供を基本とし、次の環境整備を行った。

〔環境整備〕

- ① 井戸ポンプ取替工事
- ② 機械浴槽修繕
- ③ 乾燥機修繕
- ④ 空調機 GHP 室外機リニューアル工事
- ⑤ 空調機 GHP 室外機修繕

〔物品購入〕

- ① 防犯カメラ・センサーライト取付工事（福島県社会福祉施設整備等整備費補助事業）
- ② 温冷配膳車購入（中央競馬馬主社会福祉財団助成事業）
- ③ 家庭用洗濯機 2 台購入

④ 就労通所利用者休憩室用椅子・テーブル購入

(3) 個別支援計画策定会議を開催し、利用者の生活の質を重視したその人らしい快適な生活が送れるよう、利用者個々の状況及びニーズに基づいた個別支援計画書を作成し、計画に基づいた適切なサービスの提供に努めた。

個別支援計画策定会議開催回数；89回

(生活介護；38回・就労支援B型；41回・就労移行；10回)

(4) 施設の適正な運営のため次の会議を開催した。

マネジメント会議；12回

(5) 公正・公平な事業運営と利用者のサービス選択に資するため、サービス内容に関する情報の提供、財務諸表および事業報告書等の開示を行うとともに、法人機関紙として「けやきの村便り」を3回発行しました。なお、平成26年3月31日に開設した公式ホームページを積極的に活用し、情報提供・情報開示を行った。

(6) 福祉サービスに対する利用者の苦情や意見を汲み上げ、利用者施設が対等の関係を築くとともに利用者本位の福祉サービス提供を実現するために苦情解決委員会を開催し、苦情解決体制の充実に努めた。

苦情解決委員会：平成29年6月14日開催

平成28年度における苦情については、下記のとおりである。

苦情受付件数；0件

(7) 利用者が施設において、安心・安全な生活が送れるよう、ヒヤリ・ハット・事故報告書による未然防止および再発防止に努めるためにリスクマネジメント委員会を開催した。

ヒヤリ・ハット・事故報告件数；65件（前年度比38件増）

〔内訳〕転倒40件（前年度比21件増）・外傷5件（前年度比5件増）・破損等2件（前年度比2件増）・接触0件（増減なし）・火傷0件（増減なし）・誤飲、誤嚥0件（増減なし）・異食1件（増減なし）・誤薬0件（前年度比1件減）・所在不明0件（前年度比1件減）・施設外徘徊4件（前年比4件増）・暴行3件（前年度比3件増）・自虐行為1件（前年度比1件増）・紛失1件（前年度比1件増）・その他8件（前年度比3件増）

上記の65件のほか、平成25年3月11日付24自第4657号福島県障がい福祉課長名で通知のあった事故に該当する事故件数 ⇒ 2件（自死1件、インフルエンザ感染1件）

(8) 障害者の虐待防止に努めるため、職員（56名、無記名）を対象に「障害者虐待防止チェックリスト」を活用し調査（平成29年6月）を行った。

虐待防止に関しては、法人内新任職員研修会の研修テーマに加えるとともに、施設内研修会でも8月に「障がい者虐待防止チェックリストの結果について」を内容として実施した。外部研修については、福島県障がい者虐待防止権利擁護研修会、福祉関係者のための成年後見活用講座、基幹相談支援センター主催の新任職員向け研修会等へ積極的に派遣した。

また、月1回虐待防止・権利擁護委員会を開催し、職員の気づきを大切にしながら日常の支援の中で感じたことを中心に話し合い、会議録の回覧により職員に周知した。

(9) 労働安全衛生法の改正に伴い50名以上の事業所に義務付けられた「ストレスチェック」を実施し、職員のメンタルヘルスケアに努めた。

(10) インフルエンザやノロウイルスなどの感染性胃腸炎の予防に細心の注意を払い、感染を未然防止に努めたが、2月上旬から下旬までに通所利用者9名、入所利用者9名がインフルエンザB型に集団感染してしまった。

(11) 職員の資質向上の観点から、個人研修計画に基づき積極的にOFF-JTを活用しました。職員の研修会の参加については、福島県社会福祉協議会研修センター主催の研修会を中心に参加し職員の資質の向上に努めました。併せて、法人主催の新任職員研修会にも参加するとともに、施設主催で毎月研修報告会を開催した。また、自己啓発援助制度を積極的に活用し自己研鑽に努めた。

◎外部研修会参加状況；福島県社会福祉協議会研修センター主催研修会 16回 27名  
 社会就労センター協議会関係研修会 5回 10名  
 身体障害者施設協議会関係研修会 5回 17名  
 その他の研修会・セミナー等 26回 49名  
 合計 52回 103名

◎内部研修会参加状況；法人主催 新任職員研修会 1回 6名  
 普通救命講習会 1回 6名  
 アンガーマネジメント研修 3回 56名  
 委員会主催 食中毒防止のための研修（栄養管理委員会）  
 1回 18名  
 知的障害者処遇困難事例研修（教育研修委員会）  
 1回 25名  
 認知症高齢者のケア（教育研修委員会）  
 1回 18名  
 オムツのあて方研修会（教育研修委員会）  
 1回 25名  
 施設主催 勉強会 5回 98名

テーマ；①施設の事業計画及び第三者評価結果への対応

② //

③知的障害、発達障害のある人への合理的配慮

④障がい者虐待防止チェックリストの結果について

⑤実効性のある事故予防対策を立てるために

研修報告会 10回 157名

◎自己啓発援助制度に基づく研修会参加状況 9回 20名

◎喀痰吸引研修(第三号研修)(特定の者対象)修了者(認定特定行為業務従事者認定証交付者)7名

(12) 毎月1回衛生委員会を開催し、職員の労働安全衛生に努めた。平成29年度における活動内容は以下のとおり。

開催月日	委員会議題	活動内容
4月11日	新任職員の健康管理について	職員定期健康診断実施 花見会、歓送迎会実施
5月9日	スマホ・電子メディアの健康影響について	各種クラブ活動の推進
6月20日	職員定期健康診断の結果について 歯の衛生について	普通救命講習会の実施 虐待防止アンケートの実施
7月11日	職場巡視の結果について	暑気払い ストレスチェックの実施
8月8日	虐待防止アンケートの結果について	職員旅行の実施（年間）

9月19日	健康維持のための運動について 各クラブの活動報告、法人親和会レクリエーションについて	防災訓練の実施 けやき祭の実施
10月10日	ストレスチェックの結果について 年次有給休暇の消化状況の確認	職員血液検査実施 (夜間勤務職員対象)
11月14日	夜勤職員の健康管理について	職員腰痛検査実施 腰痛防止アンケートの実施
12月5日	職員血液検査の結果について 事業所健康度レポートについて	忘年会実施 アンガーマネジメント研修 ストレスチェック面談指導
1月9日	腰痛予防策チェックリストの結果について	
2月13日	交通事故防止について (DVD)	
3月27日	平成29年度活動報告 平成30年度活動計画(案)について	防犯講習会

- (13) 福島県北地区における身体・知的・精神の三障害の施設・事業所・団体との連携を強化し、地域の中での福祉施設として、福島県北地区障がい福祉連絡協議会、福島市障がい者地域生活支援協議会及び伊達市自立支援協議会に参加し、その一翼を担った。
- (14) 平成29年度福島市障がい者週間記念事業の実務担当者として職員(2名)が参加し、障がい者週間の啓蒙活動に寄与した。
- (15) 中野地区展覧会の実行委員として職員(1名)が参加し、企画・運営に参画し、地域活動を支える団体としてその一翼を担った。
- (16) 中野地区大運動会の共催団体として実行委員会に職員(2名)が参加し、企画・運営に参画するとともに、利用者・職員が運動会の競技にも参加し、その一翼を担った。
- (17) 飯坂温泉ファイヤー祭2017「飯坂小唄流し踊り」に職員47名(内けやきの村16名)が参加し、地域活性化の一翼を担った。
- (18) 平成20年度より推進している「花いっぱい運動」を展開し、花と緑を大切にしたい潤いのある毎日を目指し、そこに住む人・そこに働く人、そしてそこに訪れる人に「癒しと安らぎ」を与えられるよう努めた。
- (19) 原発事故に伴い社会福祉施設においても節電に対する取組みが求められるなか、平成29年度においても省エネ対策チームを中心として「省エネ、節電運動の推進・ご協力をお願い」を掲示するとともに、こまめな消灯やアイドリングストップ、空調温度の管理、自動ドアの電源オフなどの対策を行い、節電に努めるとともに、経費の節減・地球に優しい環境づくりに努めた。
- (20) けやきの村三つの定め「利用者に質の高いサービスを」「職員の生活安定」・「けやきの村の経営の安定」を基本として、全職員が意識を共有し、働き甲斐のある職場づくりに努めた。

### 3. 利用者へのサービス提供について

#### (1) 生活支援

- ①利用者の生活の質を重視したその人らしい快適な生活が送れるよう、利用者個々の状況およびニーズに基づいた個別支援計画書を作成し、計画に基づき適切なサービスの提供に努めるとともに、適切な時期にモニタリングを行い、利用者の実情に沿った計画の見直しなど、きめの細かいサービス提供に努めた。

- ②グループワークの場を活用し、対人関係におけるマナーと円滑な人間関係の形成や施設運営・行事、職員の接遇対応及び給食等に対する意見・要望を汲み上げた。
- ③日中活動としての創作活動（毎月第4水曜日）や喫茶（毎月第3水曜日）・集団レクリエーション（毎週月曜日）、音楽療法（毎月最終月曜日）、朗読会（12月、2月）等レクリエーションメニューの充実を図り、自発的に参加する機会を提供するとともに、社会的な活動への動機付けとなる支援に努めた。

## （2）健康管理

- ①利用者の健康維持のため、利用者個人の障害程度や健康状態を把握し、日常の観察を密にして定期健康診断等を実施するとともに、嘱託医及び医療機関等との連携を行い、疾病の早期発見・治療に努めた。

- ・健康診断の実施

胸部レントゲン検査 受診者；111名（7月10日、64名、8月24日、47名）

心電図・肝機能検査等 受診者；102名（10月5日）

貧血・血糖検査等 受診者；102名（10月5日）

〃（第2回目）受診者；103名（3月8日）

- ・嘱託医の出務

生活介護～厚生会クリニック 毎週1回

就労支援～後藤医院 毎月2回（4月～9月）

厚生会クリニック 毎月2回（10月～3月）

- ・機能訓練の実施

毎日

リハビリテーション実施計画に基づき、入所者及び通所者に対し、機能訓練やADL指導を行った。

- ・体重測定 毎月実施

- ・インフルエンザ予防接種 102名接種

- ・入院の状況

延べ入院者数 58名（実人員14名）（前年度は延べ53名、実人員15名）

- ②インフルエンザ及びノロウイルス等の感染予防対策として、食堂ホール，就労玄関に「電子式空気清浄機」（塩素系除菌水（ソリューション・ウォーター）を噴霧できる空気清浄機（リース対応）を、1F，2Fケアカウンターに同様の「ソリューション霧化器」を設置するとともに、廊下やトイレ前，居室前の施設内各所に手指消毒用速乾性アルコール液を配置するなどした。

- ③利用者の健康に関する個人情報の取扱いに関しては、個人情報保護法等関連する規則を遵守し、健診結果や通院状況などの健康情報は適正な取扱いの確保に努めるとともに、利用者の情報を他の医療機関等と上手く共有し、継続的な治療と看護に生かした。

- ④将来の生活介護事業所の利用につなげるため、下記のとおり養護学校の生徒の実習を受け入れた。

- ・福島県立大笹生支援学校 高等部3年生 1名

- ・福大付属特別支援学校 高等部3年生 1名

## （3）給食

- ①献立は十分な栄養と変化に富んだ内容とし、また調理にあたっては利用者の嗜好や身体的条件による咀嚼や食事動作の障害を十分に考慮し、利用者に満足してもらえる給食の提供に努めた。

- ・嗜好調査の実施（3月13日～3月31日）

- ・給食委員会の開催 毎月実施
- ・選択メニューの実施 年40回（前年度44回）
- ・鍋物の日の実施 年 3回（前年度 4回）
- ・バイキングの実施 年 2回（前年度 2回）
- ・治療食等の実施（平成30年3月31日時点）
  - 脂質コレステロール食 2名（前年度 4名）
  - カロリー制限食 4名（前年度 5名）
  - 塩分制限食 4名（前年度 5名）
  - 刻み食 12名（うち通所者1名）（前年度13名、うち通所者3名）
  - 超刻み食 9名（前年度11名）
  - ミキサー食 2名（前年度 1名）
- ・食品自主検査，検便，厨房内清掃は、給食業務委託業者において実施した。
- ・防鼠，防虫施行管理業務は、委託業者において実施した。

②災害発生時における復旧時までの非常備蓄品として、アルファ米・保存水・レスキューフーズ等の食品、簡易食器（紙皿・紙コップ・割り箸等）等を概ね4日分準備した。

③入所利用者の栄養健康状態の維持や食生活の向上を図るため、個別の栄養、健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを実施するため、個々の利用者とのアセスメントを踏まえた栄養ケア計画策定のため、栄養ケアマネジメント会議を開催し、生活介護利用の入所者51名、就労系事業利用の入所者23名の計画作成及びモニタリングを実施した。

#### （4）就労支援

①就労継続支援B型事業所においては、利用者の障害状況や適性，地域の実情や景気動向を十分に勘案して作業種目を選定し、個別支援計画に基づき支援を行った。

②工賃向上に向けた取り組みとして、主なものとして以下のことを行った。

- ・毎月の月例会において利用者に対し工賃向上の取り組みについて説明を行った。
- ・日本ハムギフトセットの委託販売（7月、12月）
- ・印刷業務で「環境省福島環境再生事務所」から受注
- ・印刷業務で「独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構」から受注
- ・環境省福島環境再生事務所の平成30年度封筒印刷に係る入札に参加
- ・福島市役所売店（株）福厚企画と年賀状印刷について委託契約を締結
- ・施設外就労としてアパート清掃の業務拡大
- ・施設外就労としてアパートの定期清掃に加えて特別清掃も開始した。
- ・福島県授産事業振興会と協力し、複数事業所による共同受注品の荷受・発送の場所として体育館を提供し作業も行った。

③就労移行支援事業所においては、利用者の一般企業への就職を目標として、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター等との連携を図り、求職活動の支援に努めた。また、利用者の就労に関する適性や要望に応じた職種での職場見学の実施や特別支援学校および養護学校等の連携に努めた。

- ・一般企業等就職者数；0名
- ・ハローワーク登録者数；3名
- ・障害者就業・生活支援センター登録者数；1名
- ・企業採用試験等応募者数；2名

- ・フォローアップ支援（職場訪問）者数；1名

④将来の就労継続支援B型事業所および就労移行支援事業所の利用につなげるため、下記のとおり養護学校の生徒の実習を受け入れた。

- ・福島県立大笹生支援学校 高等部3年生 2名  
高等部2年生 1名
- ・福島県立郡山養護学校 高等部2年生 1名
- ・市立福島養護学校 高等部3年生 1名

⑤就労アセスメント実施状況 (名)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男			1(5)	1(5)		1(5)		2(10)	1(5)	
女					1(5)				2(9)	
	合 計									
男	6(30)									
女	3(14)									

※( ) 書きは、延べ実施日数

※就労アセスメントとは、労移行支援事業所等が、面談や作業観察によるアセスメントを行い、支援対象者の就労面の情報（作業能力、就労意欲、集中力等）を把握すること。

⑥年間事業収入額（新体系移行後）

年 度	年間事業収入額	年 度	年間事業収入額
平成29年度	19,781,663円	平成23年度	12,133,366円
平成28年度	14,039,938円	平成22年度	10,950,015円
平成27年度	13,301,930円	平成21年度	11,101,596円
平成26年度	12,657,290円	平成20年度	12,842,454円
平成25年度	10,905,022円	平成19年度	15,232,222円
平成24年度	12,152,621円		

⑦平成22～29年度事業別月額平均工賃額

事業所区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
工賃引上げ計画目標工賃	17,300円	20,900円	15,500円	18,000円	20,000円	15,000円
就労継続支援B型事業所	12,743円	14,795円	14,605円	12,854円	14,228円	14,661円
就労移行支援事業所	11,106円	16,394円	16,925円	9,081円	8,237円	9,449円
生活介護生産活動事業	301円	332円	477円	707円	532円	475円
事業所区分	平成28年度	平成29年度				
工賃引上げ計画目標工賃	15,500円	16,000円				
就労継続支援B型事業所	15,733円	16,449円				
就労移行支援事業所	12,404円	11,249円				
生活介護生産活動事業	534円	616円				

⑧平成27～29年度工賃引上げ計画書による目標工賃額

事業所区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
工賃引上げ計画目標工賃	15,000円	15,500円	16,000円

(5) 各種訓練等の実施状況

①介護外出（一人では外出できない利用者のための訓練）

- ・生活介護 実施回数；23回 64名参加（実人員；40名）
- ・就労支援 実施回数；11回 52名参加（実人員；27名）

②バスハイク

- ・生活介護 実施回数； 8回 33名参加  
（アサヒビール本宮工場見学、道の駅国見の里）
- ・就労支援 実施回数； 1回 10月21日（いわき、アクアマリンふくしま）  
利用者42名、父兄9名参加

③一泊旅行

- ・就労支援 実施回数； 1回 7月 7～ 8日（群馬、水上温泉方面）  
利用者33名、父兄11名参加

④ゴールデンウィーク・お盆休暇・年末年始休暇の帰省状況

- ・ゴールデンウィーク 13名
- ・お盆休暇 27名
- ・年末年始休暇 23名

(6) 父兄参加・地域開放行事の実施状況

- ①花見会（4月22日実施）
- ②盆踊り大会（8月3日実施）
- ③けやき祭（9月24日実施）
- ④芋煮会（10月28日実施）

(7) 対外行事等への参加状況

- ①三井流舞踊感謝大会（4月2日）5名参加
- ②福島県障がい者総合体育大会（会津若松市）（5月25日）12名参加
- ③曙ブレーキ納涼祭（7月29日）10名参加
- ④福島市障がい者スポーツ大会（10月14日）8名参加
- ⑤中野地区大運動会（10月8日）6名参加
- ⑥障害者週間記念事業ふれあいのつどい（12月9日）7名参加
- ⑦中野地区展覧会出品（2月10日～11日）6名6点出品

4. 事故防止について

(1) 毎月の訓練については、火災・地震・水害等の非常災害時に利用者・職員が迅速・適切な行動がとれるよう、災害内容の想定や発災の時間帯等を工夫し訓練の充実を図りました。また、法人施設間・地域防災協力者・消防署・地域消防団など地域の方々との連携の強化のための「総合防災訓練」の実施及び「総合防災対策協力者懇談会」を開催した。

また、神奈川県相模原市の障害者支援施設において発生した利用者殺害事件を契機に、防犯対策に取り組むべく、職員対象に「防犯講習会」を開催した。主な訓練内容は下記のとおり。

- ①避難訓練の実施 毎月1回

②総合防災訓練の実施	年1回（平成29年11月22日）
③夜間想定防火管理検証	年1回（平成29年 6月26日）
④地震・水害想定避難訓練	年2回
⑤消防設備法定点検	年2回
⑥火気・電気設備自主点検	年6回
⑦防災講話（ビデオ上映）	年1回（平成30年 3月29日）
⑧飯坂消防署による防火査察	年1回（平成29年 7月18日）
⑨総合防災対策協力者懇談会	年1回（平成29年11月22日）
⑩法人内各施設合同通報訓練	年1回（平成29年 8月30日）
⑪防犯講習会	年1回（平成30年 3月14日）
⑫非常食提供シミュレーション訓練	年1回（平成29年10月26日）

- (2) 新規採用者・異動職員を対象に、消火器・防火扉・非常放送等の施設内の設備及び取扱い方法を説明した。
- (3) 新規採用職員等を対象に、年2回普通救命救急講習会を開催した。
- (4) 新規甲種防火管理講習会に職員3名を派遣し、防火管理者の資格を取得させた。
- (5) 福祉避難所の開設を想定して、小型自家発電機及びジェットヒーターの使用訓練を実施した。
- (6) 土砂災害の未然防止のために「防災対策～土砂災害等の未然防止のために」を基本として、土砂災害警戒区域・土砂災害危険箇所・地すべり防止区域および地すべり危険箇所等の情報を全職員で共有し、有事の際の対応に万全を期した。なお、静心園南側堰坂地域が急傾斜地の崩壊による特別警戒区域（平成21年1月30日福島県告示第62号）となっている。
- (7) 社会福祉施設等施設整備費補助金を活用し、防犯カメラ・センサーライトを設置し利用者の安全確保に努めた。
- (8) 福島市、福島県北地区障がい福祉連絡協議会と連携し、平成29年11月3日に福祉避難所開設・受入訓練を実施した。

## 7. 施設の利用状況（各月初日現在在籍者数）

（名）

	入 所				通 所				合 計
	生活介護	就労B型	就労移行	計	生活介護	就労B型	就労移行	計	
4月	53	21	1	75	8	38	1	47	122
5月	53	22	1	76	9	38	1	48	124
6月	53	24	0	77	9	38	1	48	125
7月	53	24	0	77	9	38	1	48	125
8月	52	24	0	76	9	38	1	50	126
9月	52	24	0	76	9	35	3	47	123
10月	52	24	0	76	9	35	3	47	123
11月	52	24	0	76	9	35	3	47	123
12月	53	24	0	77	9	35	3	47	124
1月	53	24	0	77	9	35	3	47	124
2月	53	23	0	76	9	35	3	47	123
3月	53	23	0	76	9	35	3	47	123
合 計	632	281	2	915	107	435	28	570	1,485
（平均）	52.6	23.4	0.1	76.2	8.9	36.2	2.3	47.5	123.7
前年度平均	51.4	21.7	1.8	75.0	6.3	29.4	2.0	37.7	112.7

3/31現在	53	23	0	76	8	35	3	46	122
--------	----	----	---	----	---	----	---	----	-----

## 8. 新規利用者及び退所の状況

	新 規	退所者	備 考（退所者の状況）
生活介護	3	2	入院1名、死亡1名
就労B型	2	6	死亡1名、入院1名、他事業所へ2名、その他2名
就労移行	2	1	B型へ1名
（合 計）	7	9	

## 9. 定員充足率（平成30年3月31日現在）

（名）

	定 数	現 員	充 足 率	備 考
生活介護	54	62	114.8%	
就労B型	50	58	116.0%	
就労移行	10	3	30.0%	
（合 計）	114	123	107.8%	
施設入所	80	75	93.7%	

10. 障害支援区分状況（平成30年3月31日現在 通所者は除く。）（名）

	生活介護	就労B型	就労移行	合計	割合	割合（前年度）
6	14	0	0	14	18.4%	17.6%
5	10	0	0	10	13.2%	14.8%
4	14	5	0	19	25.0%	20.3%
3	13	10	0	23	30.3%	32.4%
2	2	6	0	8	10.5%	12.2%
1	0	2	0	2	2.6%	2.7%
区分無	0	0	0	0	0.0%	0.0%
合計	53	23	0	76		
前年度	52	22	1	74		

11. 短期入所の利用状況

	利用者数	利用日数		利用者数	利用日数
4月	11名	62日	10月	15名	114日
5月	12名	73日	11月	14名	55日
6月	12名	49日	12月	9名	39日
7月	16名	64日	1月	9名	35日
8月	12名	52日	2月	5名	13日
9月	16名	83日	3月	10名	37日
			合計	141名	676日
			前年度	118名	439日

12. 通所利用状況（就労支援事業利用者）

	利用者数(名)			基本日数	平均 利用日数	利用率	備考
	B型	移行	合計				
4月	38	3	41	22日	17.4日	79.1%	
5月	39	1	40	23日	17.4日	75.7%	
6月	38	1	39	22日	18.2日	82.7%	
7月	36	2	38	23日	17.9日	77.8%	
8月	36	4	40	23日	18.2日	79.1%	
9月	35	5	40	22日	16.8日	76.4%	
10月	35	4	39	23日	18.3日	79.6%	
11月	35	4	39	22日	17.1日	77.7%	
12月	35	4	39	23日	17.5日	76.1%	
1月	35	6	41	23日	16.6日	72.2%	
2月	35	7	42	20日	13.3日	66.5%	
3月	34	5	39	23日	17.1日	74.3%	
合計	431	46	477	269日	205.8日	76.5%	前年度77.6%